

令和2年度 第4回 海老名市にぎわい振興審議会 会議録

日時等	令和2年10月14日(水) 13:30~15:00 政策審議室		
議題	・「えびな元気にぎわい振興計画(第2期)」(案)について		
出席委員	羽田会長、三田副会長、佐藤委員、門脇委員、長委員、伊藤委員、三部委員、半澤委員 計8名		
公開の可否	公開	傍聴者数	0名
事務局・説明者等	経済環境部長 金指、 経済環境部次長 松本、 商工課長 一杉、 にぎわい振興係 係長 佐藤、主任主事 増田、長嶋		

議題1 「えびな元気にぎわい振興計画(第2期)」(案)について

■ 事務局より「えびな元気にぎわい振興計画(第2期)」(案)について説明

委員 目玉事業について、茅ヶ崎市でも商品券を始めており、飲食店で3杯お酒を飲んで、さらに各店舗の得意料理をプラスするといった取組みをしている。市が何かしてくれるのを待つのではなく、事業者側が努力をしなければお客様は来ないので、自分達の努力や工夫が大切だと考える。

委員 目玉については、計画内容をまんべんなく実施するよりも、メリハリをつけて予算を配分することで、今まで気づかなかったにぎわいが創出されることもあると思う。

委員 商工課の目玉の事業といえば何であったか。

事務局 名店・名製品の認定事業、実証実験ツアー(バスツアー)、ふるさと納税事業、中小企業への補助金や支援金事業、プレミアム付商品券等が挙げられる。

事務局 計画の中に目玉がないという意味ではなく、芽はあると考えている。コロナ禍におけるVRやコワーキングスペースなどを前面に打ち出した新たなにぎわいづくり事業やMICEなども考えられる。メリハリをつけることにより目玉とするイメージである。これらは今までは、今ひとつ打ち出せていなかった印象。

委員 おそらく、事業名などの表現の仕方だと考える。事業名と事業内容をひっくり返すと印象が変わるものもある。

事業としては、えびな元気ナビに予算を割くべきではと考えている。市民・来街者に対する情報をインパクトを持って伝える場合、このアプリが適当である。ツアーを考えた場合、リアルだけではなくオンラインも融合させたハイブリッドなツアーも重要になるのでは、と考えている。また、駅周辺に商業施設が集積しており、ロマンスカーミュージアムなどもできる。駅周辺でひとつのキャッチコピーがあるといいなと思っている。

委員 確かに駅前なものすごく賑わっており、1日で回ろうと思うと回れない。しかし、

駅前にも固まっておりに波及していないため、市内全域に誘導するようなことを考えなければならない。

委員 計画については目玉がないように見えるが、逆にすっきり綺麗に整理されていると感じる。あとは、例えば50周年のイベントでも構わないが、何か全体に経済効果が生まれるような大きな事業を計画の後ろに持ってきて、その下に他の事業をもってくると目玉になるかと思う。

事務局 施策をすべて連動させていけたら良いと思う。健康もブームになっているので、まち歩きツアーの最後に特産の米や酒、野菜を購入してもらおうなど。今まで、アツギ株式会社は海老名市に工場があるが、市内に向けたものづくり等はしてこなかった。会社としても、庭園等を市民に開放したり、えび〜にゃのマスクやストッキングを作る等、海老名に根付いたものづくりに取り組んでいければと思う。

事務局 前回の審議会ではコロナ禍をあまり意識しないと伝えたが、実際に庁内でヒアリングを実施したところ、各課でもコロナを意識した予算措置を行わざるを得ない状況となっている。

目玉については、初期計画が62もの事業で細かく規定されていたこともあり、身動きが取れなかったため、今回は細かすぎないように作成している。しかしながら、見せ方により目玉や「推し」の事業も伝えていけるかと思うため、次回までに修正を行う。

委員 貴重なご意見を頂戴した。事務局とともに次回審議会での確定に向け、ご意見を踏まえてとりまとめさせていただきたい。

議題2 その他について

■ 事務局より策定のスケジュール及びおでんナイトの開催について説明